

Widener Memorial Library” と言うようです。ハーバード大学を1907年に卒業したWidenerは、1912年、豪華客船タイタニックとともに短い生涯を閉じました。母のEleanorは、息子の意を酌んでこの図書館を寄付しました。館内には、Widener が使っていた書斎がそのままの形で維持されています。現在、大がかりな修築・修繕が行われていて、利用できないエリアがたくさんありました。彼の書斎も整理が始まっていて、残念ながら部屋の中に入って見ることはできませんでした。

この図書館の外観は、古代ギリシアの神殿のような巨大な柱が何本も立ち並ぶ壮麗な造りが特徴です。建物の中に一歩足を踏み入れると、あたかも20世紀初頭にタイムスリップしてしまっ

たかのような錯覚に陥ります。レファレンスルームを少しだけ歩きましたが、しわぶき一つ聞こえない厳粛な空間がそこにはありました。

立ち去り際に、入口の扉に貼ってある紙に目が止まりました。それには、「研究図書館の責任として、教官、学生、研究者の研究環境を守るため一般の方の見学はお断りします」という内容のことが数ヶ国語に訳されて書いてありました。館内の撮影も禁止されています。図書館という「場」がいかに大切であるか、そして、誰のために何のためにその場を守らなければいけないのか、この当たり前の、しかし当たり前すぎるゆえに見失いがちのことに、遠い異国であらためて気づかされる思いで、その文章を何度も読み返しました。

(ごとう けいた)

附属図書館資料紹介

「植物学・園芸学：文献・標本コレクション」 平成11年度全国共同利用図書資料（大型コレクション）

平成11年度全国共同利用図書資料（大型コレクション）として、「植物学・園芸学：文献・標本コレクションBotanical and horticultural collection. pt.1: Plant taxonomic literature collection」が附属図書館で購入されました。このコレクションには植物分類学に関する4,679点の基本参考文献が納められています。植物分類学者にとって重要でありながら入手困難で、日本の図書館にはどこも所蔵されておら

ず、植物分類学の研究を進める上で大きな支障をきたしていました。

文献は、大英博物館自然史部（British Museum, Natural History）の蔵書をもとにマイクロフィッシュ化されています。本コレクションが購入されたことにより、本学及び全国の植物学、園芸学の関連分野の研究者にとって学術・研究上の利便性が高まり、研究も飛躍的發展が見込まれます。

CD-ROM版PCI（欧米雑誌記事索引）

PCI (Periodicals Contents Index)CD-ROMが附属図書館で購入され、4月から利用に供しています。PCIは19世紀から1990年までの主要な人文・社会系雑誌3500誌の目次を網羅する唯一の欧文雑誌記事索引データベースです。今回、一挙にSeries IとIIすべてが購入されました。この中には、京都大学が所蔵していて歴史的に著名な雑誌、引用されることの非常に多い雑誌、英語圏以外で刊行され主要な索引誌に登場する

雑誌等が収録されています。

京都大学にとって、膨大な量を誇る、人文・社会科学系の各図書室が所蔵している雑誌の有意義な活用のための貴重なツールとなります。なお、PCIは電子図書館「学内向けサービス」のページからご利用になれます。

<http://ddb.libnet.kulib.kyoto-u.ac.jp/lusr/gakunai.html#cdrom>